

11TH ANNIVERSARY 創刊11周年記念号

# パースとの躍進

お陰様で、本誌は創刊11周年を迎えることができました。  
今特集では、本誌スタッフ紹介と、読者の皆さんの思い出づくりに役立つ、  
完全保存版の『パース未来ダイアリー』をお届けします！

## パースエクスプレス スタッフ紹介

本誌スタッフが、今タイトルの『躍進』をテーマにした  
ストーリーを書きました。それぞれの視点から見た  
『躍進』ストーリーをお楽しみ下さい。

時代を見る目と柔軟な対応、しかしそこには一貫した哲学があり、容易に曲げることはない。ひとつの足掛かりを見つけたとき、他を振り返ることなく邁進し、踏破する。さらにそれを足場に駆け上がる。即決断即実行がもたらす、目を見張るばかりの快進撃。見据える先はまだ遙か、一つ踏み出す度に新たな一段を設けていく。そうして今も昇りつづけ、人々の羨望と期待とをさらに背負っていく。

制作部 / stamp ME

私の行動、発言は支離滅裂です。例えば、揚げなすを作ろうとなすを切っていると、ふと「洗濯してない！」と思い、洗濯を始めます。洗濯機をまわして大満足。また、なすを切り始めます。また、友人との会話。「お好み焼き作るねん」「材料は？」「え～と小麦粉と…、あ！小麦粉買いに行かな！スーパー7時までやんな？あ！！昨日、ティムタム2ドルやったで！」「え！そうなの！」と友人もつられる程の勢いで話が折れる。そんな私ですが、自分の気持ちや考えを文章に書くと、終始一貫します。小さい頃、母親に叱られると、折り紙に覚えたての平仮名で『ごめんなさいおてがみ』を書いて台所に置き逃げしました。学校の先生には“落ち着き無し”と通信簿に書かれながらも、作文は褒められました。OL時代、私の報告書が専務の目に止まり、会議の報告書係に任命。そして今は、パースエクスプレスの編集スタッフとして働いています。折り紙手紙からパースエクスプレスへ。これが私の『躍進』です。

編集部 / のりたま

俺の『躍進』って何…？。考え出したところで、三男はため息をついた。一つひとつ過去を振り返ってみても、「これぞ躍進！」と頭の脳細胞全てを瞬時に納得させる経験がないのだ。「躍進って、何か大きなことをやり遂げることだろう？」三男は自分に問い掛け、納得し、また見つかるあてのない答えを探る。もう4日間、そんな調子を繰り返している。締め切りが目前になり、プレッシャーが頭を襲う。その時、ハッと気付いた。「やり遂げた大きなものがないということは、今はそれをやっている最中なんだ！」最近多くなったポジティブ思考への転換である。三男は「無理やりかな」とふと冷静になるが、そんな経験は誰もいないだろうか、とまた無理やりな理屈を重ねた。目標が見えないが、今やっていることが無駄ではないことを後で知る人もいる。その人にとって、それは降雨の後に雲間から落ちる一筋の光に似ている、そんな叙情詩を柄にもなく考えた。そして、「今回の悩みの日々も無駄ではない」と確信した。その時、ふと後ろから同僚に名前を呼ばれ、三男は反射的に返事をした。が、それがいつもより半オクターブ高かったことに、三男は気付いていない。

編集部 / 男三兄弟

約5年前の今頃、学生だった私はイギリスに3ヶ月間留学し、初めての海外生活の中で異文化というものを学びました。例えば、朝から晩まで常に紅茶がポットに作られてあったり、シャワーのお湯はタンクから供給されているので長時間は使えなかったり、食事は各自の分が1つのプレートに盛られて用意されるなどです。滞在中は正直、不便に感じることもたくさんありました。しかし、帰国した後、その時の体験が自分にとってどれだけ有意義なものだったのか実感しました。そして今度は、海外で自分で生計を立てながら生活してみようと決心。それから5年後の今、私はパースで当出版社の営業として働いています。パースでも不便に感じることは多々ありますが、それ以上にいろいろなおことに刺激を受けています。今後も止まることなく、更に邁進していきたいです。

営業部 / ASSHU